

GAH PAN BIDJAIÞ· NI SĪJAIÞ || SYASYE ÞAI LIUTANS· UNTE FRIJONDA || ĪN
 jah þan bidjaiþ· ni sijaiþ swaswe þai liutans· unte frijond Īn
GAUMÞIM GAH WAHSTAM PLAPJO STANDANDANS BIDJAN· EI
 gaumþim jah waihstam plapjo standandans bidjan· ei
GAUMJAINDAU MANNAM· AMEN· QĪÞA İZWIÞ ÞATEI HABANA MIZDON
 gaumjaindau mannam· Amen· qīþa izwiþ þatei haband mizdon
SEINA· İÞ ÞU ÞAN BIDJAIÞ· GAGG İN HEÞJON¹ ÞEINA GAH GALUKANDS
 seinā· iþ þu þan bidjais· gagg ĩn heþjon¹ þeina jah galukands
HAIKARI || ÞEINAI· BIAEI AN ATTIN ÞEINAMMA² ÞAMMA İN FULHSNJA· GAH
 haurdai þeinai bidei du attin þeinamma² þamma ĩn fulhsnja· jah
ATTIÞA ÞEINS SAEI SAIVIÞ³ İN FULHSNJA⁴· USGIBIÞ ÞUS İN BAIHTEIN· || ·MG·⁵
 atta þeins saei saivīþ³ ĩn fulhsnja⁴· usgibiþ þus ĩn bairhtein· ·mg.⁵
BIDJANDANSUÞ ÞAN NI FILUWAURDĪAIÞ· SYASYE ÞAI ÞIUDO: ÞUGKEIÞ ||
 Bidjandansuþ þan ni filuwardjāiþ· swaswe þai þiudo: þugkeiþ ||
İM AUK EI İN FILUWAURDEIN SEINAI ANHAUSJAINDAU· NI GALEIKOÞ NU
 ĩm auk ei ĩn filuwardein seinai andhausjaindau· ni galeikoþ nu
ÞAIM: WAIT AUK ATTA İZWAR ÞIZEI JUS ÞAURBUÞ· FAURÞIZEI JUS
 þaim: wait auk atta izwar þizei jus þaurbuþ· faurþizei jus
BIDJAIÞ İNA· SWA NU BIDJAIÞ JUS: ATTA UNSAR ÞU İN HIMINAM⁶
 bidjaiþ ĩna· swa nu bidjaiþ jus: Atta unsar þu ĩn himinam⁶

【St. Matthew VI: 5-9】

WEIHNAI NAMO ÞEIN· QĪMAI ÞIUDINASSUS ÞEINS· WAIRÞAI WILJA ÞEINS·
 weihnai namo þein· qīmai þiudinassus þeins· wairþai wilja þeins·
SYE İN HIMINA GAH ANA AIRÞAI· HLAIF UNSARANA ÞANA SINTEINAN GIF
 swe ĩn himina jah ana airþai· hlaif unsarana þana sinteinan gif
UNNS HIMMA DAGA· GAH || AFLET UNNS ÞATEI SKULANS SĪJAIMA, SWASWE GAH
 unns himma daga· jah aflet unns þatei skulans sijaima, swaswe jah
WEIS AFLETAM ÞAIM⁷ SKULAM UNSARAIM· GAH NI BRIGGAIÞ UNNS İN
 weis afletam þaim⁷ skulam unsaraim· jah ni briggais unns ĩn
FRAISTUBNĪAI· AK LAUSEI UNNS AF ÞAMMA UBILIN: UNTE || ÞEINA İST
 fraistubnjai· ak lausei unns af þamma ubilin: unte þeina ist
ÞIUDANGARDI GAH MAHTS⁸ GAH WULÞUS İN AIWINS· AMEN· ·MD·⁹ UNTE
 þiudangardi jah mahts⁸ jah wulþus ĩn aiwins· amen· ·md.⁹ Unte
GAÞAI AFLETIÞ MANNAM || MISSAÐEAINS İZE· AFLETIÞ GAH || İZWIÞ ATTA
 gaþai afletiþ mannam missaðeains ize· afletiþ jah izwiþ atta
İZWAR SA UFAH HIMINAM¹⁰· İÞ GAÞAI NI AFLETIÞ MANNAM MISSAÐEAINS İZE·
 izwar sa ufar himinam¹⁰· iþ gaþai ni afletiþ mannam missaðeains ize·
NI ÞAU ATTA İZWAR AFLETIÞ MISSAÐEAINS İZWAROS: AÞÞAN BIÞE
 ni þau atta izwar afletiþ missaðeains izwaros: Aþþan biþe
FASAIÞ· NI WAIRÞAIÞ SWASWE ÞAI LIUTANS GAURAI: ||
 fastaiþ· ni wairþaiþ swaswe þai liutans gaurai: ||

【St. Matthew VI: 9-16】

1 はじめに

iGothicTeX パッケージは、ゴート語を記述するためのゴート文字フォント、言語学などで用いられるローマ字転写用フォント、およびフォントを利用するための各種マクロからなる。また、ハイフネーションパタンの試作ファイルを同梱した。

2 ゴート語・文字

ゲルマン民族に属するゴート人の言語をゴート語とよぶ。この言語最大の文献は、4世紀の半ば頃ウルフィラ (311年頃~382/383年頃, Ulfila, Vulfila, Wulfila などと書かれる) が訳したといわれる聖書『ウルフィラ聖書』のゴート語訳である。ゴート語聖書はウプサラ大学が所蔵する 336 葉中 187 葉が現存する。銀色のインクで書かれていることから Codex Argenteus 『銀写本』の名がある (一部は金色)。500 年頃成立。

現存するゴート文字はギリシャ文字を主体とし、これにラテン文字とルーン文字を加えた 27 文字からなり、そのうちの 2 文字は数字として用いられる。この文字の歴史についてはほとんど何も伝わっていないことから、ウルフィラが作った文字と現存の文字が同一であったかどうか不明である。

次にゴート文字のアルファベットを示す。上から順に、ゴート文字、名称、ローマ字転写、音価、数価を表す。ここに示すフォントは『ウルフィラ聖書』で用いられる書体を再現するために作られた Gutisks Font である (6 ページ参照)。

𐌰	𐌱	𐌲	𐌳	𐌴	𐌵	𐌶	𐌷	𐌸	𐌹	𐌺	𐌻	𐌼	𐌽
ahsa	bairkan	giba	dags	aihvus	qairthra	iuja	hagl	thiuth	eis	kusma	lagus	manna	nauths
a	b	g	d	e	q	z	h	þ	i i	k	l	m	n
[a/a:]	[b]	[g]	[d/ð]	[e/e:]	[kw]	[z]	[h]	[θ]	[i/i:]	[k]	[l]	[m]	[n]
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	20	30	40	50
𐌾	𐌿	𐍀	𐍁	𐍂	𐍃	𐍄	𐍅	𐍆	𐍇	𐍈	𐍉	𐍊	𐍋
jer	urus	pairthra		raida	sauil	teiws	winja	faihu	iggws	hwair	othal		
j	u	p	—	r	s	t	w	f	x	lv	o	—	—
[j]	[u/u:]	[p]		[r]	[s]	[t]	[w]	[f]	[kh]	[hw]	[o/o:]		
60	70	80	90	100	200	300	400	500	600	700	800	900	

𐍆, 𐍊 などはルーン文字から借用した文字である。𐍆 𐍆, 𐍊 𐍊, 𐍇 𐍇, 𐍈 𐍈, 𐍉 𐍉, 𐍊 𐍊

なお、𐌸 はルーン文字の [θ] 音を表す þ ではなく、ギリシャ文字の φ (phi) を取り入れた。𐌴, 𐍂, 𐍃 がちぎれているように見えるのは、ペンをひねるような動作を必要とする部分を分けて書いたためである。

3 正書法

3.1 ゴート文字

ゴート語正書法の要点を次に述べる。1 ページと 2 ページの出力例を参照されたい。1 ページの例は Gutisks Font で組まれた『ウルフィラ聖書』の一部を写したもので、左ページ最終行 𐌰𐌳𐌳𐌰 から右ページ 12 行目 𐌰𐌼𐌺𐌽 までが『主の祈り (The Lord's Prayer)』である [Hildegrunds]。2 ページの例は、原典を分かち書きにし、ローマ字転写を添えたものである。右肩に添えた数字は以下の説明で参照する箇所を示す。

1. 神聖名

「神」「イエス」「キリスト」「主」など神聖名は次のように略記する。各略語において、左側がゴート文字、右側がローマ字転写による表記である。なお、*gub, *xristus は、文献には現れないが、理論的に推定された形である。

	*gub 'Got'	iesus 'Iesus'	*xristus 'Xristus'	frauja 'Lord'
主格	𐌹𐌺 𐌸𐌺	īns īus, īs īs, īs īs	𐌶𐌹𐌺𐌰 𐌶𐌹𐌺𐌰, 𐌶𐌹𐌺 𐌶𐌹𐌺	𐌱𐌶𐌰 𐌱𐌶𐌰
呼格	𐌹𐌺 𐌸𐌺	īn īu	𐌶𐌹𐌺 𐌶𐌹	
属格	𐌹𐌺𐌰𐌰 𐌸𐌺𐌰𐌰	īnis īuis	𐌶𐌹𐌺𐌰𐌰 𐌶𐌹𐌺𐌰𐌰	𐌱𐌶𐌰𐌰 𐌱𐌶𐌰𐌰
与格	𐌹𐌺𐌰 𐌸𐌺𐌰	īn𐌰 īua, īn īu	𐌶𐌹𐌺𐌰 𐌶𐌹𐌺𐌰	𐌱𐌶𐌰 𐌱𐌶𐌰
対格	𐌹𐌺 𐌸𐌺	īn īu	𐌶𐌹𐌺 𐌶𐌹	𐌱𐌶𐌰 𐌱𐌶𐌰

特に Gott を表す 𐌹𐌺, 𐌹𐌺𐌰𐌰, 𐌹𐌺𐌰 は常に略記する。

𐌲𐌿𐌶𐌰𐌰𐌰 𐌸𐌺 𐌹𐌺𐌰𐌰 · 𐌿𐌶𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰 𐌺𐌺 𐌹𐌺𐌰 · 𐌸𐌶𐌰𐌰 𐌶𐌹𐌺 𐌹𐌺𐌰 · 𐌸𐌶𐌰 𐌶𐌹𐌺 𐌶𐌶𐌰𐌰 𐌹𐌺𐌰𐌰 𐌹𐌺𐌰𐌰𐌰𐌰

trauaida du 𐌸𐌺𐌰 (guda) · lausjadau nu ina · jabai wili ina · qap auk þatei 𐌸𐌺𐌰 (gudis) im sunus · (Matthew 27:43)

2. ĩ / i

ギリシャ語に2種類の s (ς σ) があるように、ゴート語では2種類の i (ĩ i) を使い分ける。ĩ は音節の始めて用いる文字であり、i-ウムラウトではない。𐌱𐌶𐌰𐌰𐌰 は fra (Präfix ver-) と itan (Verb. essen) の合成語である。

īst ist, 𐌱𐌶𐌰𐌰𐌰 fraiþ, 𐌰𐌶𐌰𐌰 saiþ

3. 略語・合字

行末で略語と合字を用いる場合がある。

鼻子音 [m], [n] が入るべき位置に省略記号を用いる場合がある。

¹𐌹𐌺𐌰𐌰𐌰: heþjon, ²𐌿𐌶𐌰𐌰𐌰𐌰: þeinamma, ⁴𐌱𐌶𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰: fulhlsnja, ⁶𐌹𐌺𐌰𐌰𐌰𐌰: himinam, ⁷𐌿𐌶𐌰𐌰: þaim, ¹⁰𐌹𐌺𐌰𐌰𐌰: himinam,

1 ページで示した以外の箇所では次のような使用例もある。

𐌿𐌶𐌰: ans 𐌸𐌶𐌰: qen, 𐌹𐌺𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰: inwindans, 𐌰𐌶𐌰: sind, 𐌱𐌶𐌰: razn, 𐌰𐌶𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰𐌰: swarandsþatei

2 文字あるいはそれ以上の文字を結合して用いる場合がある。

⁸𐌹𐌺𐌰𐌰: 𐌹𐌺𐌰𐌰

4. 数字

ゴート語で数を表すには、数詞 (1: ains, 2: twai, 3: þreis など) があるが、たいていは文字を数字として用いる。

⁵𐌹𐌺𐌰 · 43 ⁹𐌹𐌺𐌰 · 44

5. 句読法

分かち書きを行わない。文節あるいは文単位で、スペースあるいは中点・を挿入する。また、意義上の切れ目にはコロロン ; を打つ。新しい章を始める際は、数を表す文字を用いて章番号を振る。新しい章が

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"2x		↑		h										˘	•	
"4x		ʀ														
"6x		ʀ	B	X	a	e	f	g	h	i	ç	k	l	m	n	q
"7x	π	u	κ	s	t	n	ψ	γ	o	z						
"Ex																ï

★ Gothic1 Font 以外に次のゴート文字フォントがある。

- Gutisks Font : ʀβγδϵυζηϕϊκλμηηζηηπϑκστυϕχϑ↑

<http://hometown.aol.de/hildegunds/CodesArgenteus/index/html>

1 ページの出力例で使用したフォントである。このフォントは、Codex Argenteus を電子的に再現するプロジェクトのために作られたものである。現在は、Matthew が完成している。例に見られるように、文字の他に、合字、略語や省略記号を始めとする各種記号類を備えている。他のフォントと見比べると、カーニングにやや難がありそうだが、本来の目的が写本の再現にある以上、当然のことであろう。Type1 と TrueType 形式のフォントがある。Gutisks Font の文字表（一部分）を次に示す。

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"4x	Ⓜ	ʀ	β	γ	δ	ϵ	ϕ	ζ	η	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	
"5x	π	υ	κ	σ	τ	η	ο	γ	χ		ζ	[\]	ʀ	_
"6x	ʀ	ʀ	β	ï	δ	ε	ϕ	g	h	i	ç	k	l	m	n	x
"7x	π	u	κ	s	t	n	o	γ	x	ψ	z	{		}	~	δ
"Cx	˘	˘	˘	˘	ϕ	ixh	ank	ϕ	ank	ϕ	ϕ					ï
"Ex	ʀ	ʀ	ʀδ	ʀσ	ε	ʀʀ	ʀIN	ʀINS	ʀϕ	ʀϕS	ı	ıS	ıN	ıÑ	ı	ı

- Gotisch Font : ʀβγδϵυζηϕϊκλμηηζηηπϑκστυϕχϑ↑

www.supakoo.com/eli?p=Fonts

作者によると、Gothic1 フォントをもとにして、より可読性の高いものを目指して作成したものである。略語、省略記号のグリフは含まれていない。フォント内の文字は Gothic1 Font とほぼ同じ配列である。

- ALPHABETUM Unicode font :

<http://guindo.cnice.mecd.es/~jmag0042/alphabet.html>

入手したフォントから ttf2tfm を使って tfm を生成した場合、alphabetum7.tfm の"70 から"8F にゴート文字が、ゴート文字アルファベット順に配置されている。T_EX で利用するには事前に入力方法を定義する必要がある。なお ALPHABETUM Unicode fonts は shareware である。

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"7x																
"8x																

各種 Windows 用 Unicode フォントの中で、MPH 2B Damase, Code2001, Vulcanius がゴート文字を提供している。しかしながら、ゴート文字が U+10330 - U+1034F にマッピングされているため、これらは T_EX で利用することができない。文字の字形・コード等の情報を知るには BabelMap などのユーティリティがある。

4.2 エンコーディング

前項で取りあげた Gutisks Font と Gothic1 Font のエンコーディングを比較すると、ゴート語アルファベットでは使用しない c と y に配置するゴート文字に次のような相違がある。

ゴート文字	ψ	ï	ϣ	χ	Ϡ	↑	·	:	h
Gutisks Font	y	c "EF	"F9	x	v	"FA	.	:	
Gothic1 Font	v	"EF	y	c	x	!	.		#

Gothic1 Font は、ギリシャ語の χ が chi であることから x を c ("63) に配置する。希にしか使われないであろう ϣ を y ("79) に置いている。ï の入力方法は T1 エンコーディングにおける入力方法 \ "i と同じである。

一方、Gutisks Font では、使用頻度の高い ï を c ("63) に、χ を x ("78) に、また、Ϡ (hv) を v ("76) に配置している。y ("79) には ψ を当てる。数詞は "F9 と "FA の位置に配置する。

iGothicTeX パッケージは上で述べたように ï の入力が容易な Gutisks Font のエンコーディングを採用することにした。

4.3 ゴート語フォントのカスタマイズ

iGothicTeX はオリジナルのエンコーディングを変更した仮想フォントを使用する。また、分綴機能を付加している。

4.3.1 仮想フォント igothic.vf

igothic.vf は、Gothic1 Font を基にして、イニシャル文字、略語などを追加した下表のエンコーディングからなる仮想フォントである。

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"2x				h									·	˘	·	˘
"3x	˘							ϣ	↑	:	∴					
"4x		ρ	Β	ï	α	ε	ƒ	γ	h	ι	Ϛ	κ	λ	μ	ν	ρ
"5x	π	υ	ϣ	σ	τ	π	θ	γ	χ	ψ	z					
"6x		ρ	Β	ï	α	ε	ƒ	γ	h	ι	Ϛ	κ	λ	μ	ν	ρ
"7x	π	υ	ϣ	σ	τ	π	θ	γ	χ	ψ	z					
"Ax	ρ̄	ρ̄σ	ρ̄ψ													
"Ex																ï

仮想フォントは [基礎解説] を参照して作成した。

- vpl ファイルの生成

tftopl gothic1.tfm igothic.vpl として、編集可能なテキストファイル igothic.vpl を生成する。このフォントに対して以下の編集を行う。

- 仮想フォントが参照するフォントとそのサイズの指定

MAPFONT で 0 という識別番号を付けたフォント gothic のサイズは、`\font` で使われる `at` で指定する値と同じような働きをする FONTAT で指定し、ここでは 10pt である。同様に識別番号 1 のフォントサイズは gothic フォントを 0.7 倍したもの、また、識別番号 2 のフォントサイズは gothic フォントを 1.6 倍したものである。

```
(MAPFONT D 0
  (FONTNAME gothic)
  (FONTAT R 1.0)
  (FONTDSIZE R 10.0)
)
(MAPFONT D 1
  (FONTNAME gothic)
  (FONTAT R 0.7)
  (FONTDSIZE R 10.0)
)
(MAPFONT D 2
  (FONTNAME gothic)
  (FONTAT R 1.6)
  (FONTDSIZE R 10.0)
)
```

- キャピタル文字

キャピタル文字 ("41~"5A) は元になるフォントを拡大した識別番号 2 のフォントを用いる。A ("61) を 1.6 倍して A ("41) の位置にマッピングした文字が **A** である。倍率は EC フォント A の CHARHT 0.6887 と a の CHARHT 0.4304 の比を用いた。この変更に伴い、フォントの高さ (CHARHT)、幅 (CHARWD)、深さ (CHARDP) の値も新たに定義する。

```
(CHARACTER C A
  (CHARWD R 0.9963)
  (CHARHT R 1.1159)
  (CHARDP R 0.4535)
  (MAP
    (SELECTFONT D 2)
    (SETCHAR C a)
  )
)
```

- カーニングの調整

ある文字に別の文字が続いたときにその文字間に挿入する空白 (カーニング) の量を、LIGTABLE 内の KRN プロパティで定義する。次の例は、**f** に **r** が続いたときに 0.077759 (単位は DESIGNUNITS) の空白を挿入している。

```
(LIGTABLE
  (LABEL C f)
  (KRN C r R 0.077759)
  (STOP)
)
```

- 単語間スペース。

Gothic1 Font の単語間スペースが狭いので、FONTDIMEN プロパティの SPACE で幅を広げた。

```
(FONTDIMEN
  (SLANT R 0.0)
  (SPACE R 0.333252)
  (STRETCH R 0.112569)
  (SHRINK R 0.074994)
  (XHEIGHT R 0.695966)
  (QUAD R 0.999756)
)
```

- 略語の定義

gub を表すグリフ $\overline{r\psi}$ を次のように作成した。まず SETCHAR プロパティで $r\psi$ を作成する。次に、MOVEDOWN, MOVEUP, MOVELEFT, MOVERIGHT など参照点を移動しながら SETRULE によって罫線を引き、その両端に識別番号 1 のフォント中から 56 番のピリオドを付け加えて合成した $\overline{\cdot}$ を、 $r\psi$ の上にかぶせる。

```
(CHARACTER 0 240 (comment gy)
  (CHARWD R 1.630162)
  (CHARHT R 1.190244)
  (CHARDP R 0.394)
  (MAP
    (SETCHAR C g)
    (SETCHAR C v)
    (MOVELEFT R 1.3)
    (SELECTFONT D 1)
    (MOVEUP R 0.95)
    (SETCHAR 0 56)
    (MOVELEFT R 0.09)
    (MOVEUP R 0.18)
    (SETRULE R 0.07 R 0.5)
    (SETRULE R 0.05 R 0.45)
    (MOVEDOWN R 0.2)
    (MOVELEFT R 0.15)
    (SETCHAR 0 56)
  )
)
```

- tfm ファイルと vf ファイルの生成

上記のように編集した igothic.vpl に対して `vptovf igothic.vpl` と処理すると、組版に用いられる igothic.tfm ファイルと、それに対応する仮想フォント igothic.vf が生成される。

- ★ iGothicTeX パッケージは、オリジナルの TrueType フォント Gothic1 を textrace で Type1 形式に変換した Gothic.pfb フォントを使用する。Type1 フォントを利用すると機械的にスランテッド体やボールド体 (Bold Extended) を生成することができる。フォントを作成するには、まず、gothic.tfm を gothicsl.tfm に、ボールド体も作成するのであれば同じく gothic.tfm を gothicex.tfm にコピーする。次に psfonts.map に下記 2 行を追加する。これで gothicsl フォントがスランテッド体に、gothicex フォントがボールド体になる。

```
gothicsl TeX-gothic "0.167 SlantFont" <gothic.pfb
gothicex TeX-gothic "1.2 ExtendFont" <gothic.pfb
```

MANNE SNMS AILTA TYANS SNNNNS.

4.3.2 フォントとハイフネーションの定義

次は `igothic.sty` におけるフォントとハイフネーションパターンを使用するための定義である。例では一部省略している。定義は [Beccari] に倣って作成した。

```

\newcommand*\setigothic{% (1)
\usefont{LIGOT}{igothic}{m}{n}% (2)
\language=\l@gothic \lefthyphenmin\tw@ \righthyphenmin\@ne% (3)
\catcode'\="=12%
\def\""{\hskip\z@skip}% (4)
}
\IfFileExists{igothic.fd}{%
\input{igothic.fd}% (5)
\DeclareTextFontCommand{\textgothic}{\setigothic}% (6)
\newenvironment{gothic}{\setigothic\ignorespaces}{\ignorespaces}% (7)
}{}%

```

`\setigothic` (1) は次行の (2) から (4) までの定義をまとめて定義するコマンドである。`\usefont` (2) によって `igothic` フォントを選択する。`\language` (3) に「言語ゴート語」を意味する `l@gothic` をいう値を代入する。この値は、ハイフネーションパターン・ファイルをフォーマット・ファイルに読み込んだ際に保存される値で、他の言語と区別する際に参照される。`\lefthyphenmin` と `\righthyphenmin` は、分綴する際に切らずに残しておく最小文字数を指定するコマンドで、ゴート語では左 2 文字、右 1 文字である。`\"` (4) については後述する。`\textgothic` (6) と `gothic` (7) はゴート語を入力するためのコマンドと環境で、それぞれの内部でのみ `\setigothic` が有効になるように定義している。

ところで、『ウルフィラ聖書』では分綴を行う際にハイフンを使っていない（そもそもハイフンなど無い）。そこで本パッケージでもゴート文字を用いる際、ハイフンを出力しない分綴を行うように定義した。次は `\input` (5) で読み込むフォント定義ファイル `igothic.fd` の一部である。

```

\DeclareFontEncoding{LIGOT}{-}{-}
\DeclareFontFamily{LIGOT}{igothic}{\hyphenchar\font='040}% (8)
\DeclareFontShape{LIGOT}{igothic}{m}{n}{<-> igothic}{-}

```

`\hyphenchar\font='040` (8) は `igothic` フォントの中でグリフを割り当てていない空白の文字をハイフンとして用いる定義で、これにより分綴の際ハイフンが出力されない。また、明示的に分綴位置を指定するコマンド `\-` は、このままではハイフンを出力するので、Babel のオランダ語やドイツ語オプションで定義している `\"` に倣って `\"` (4) を定義し、ハイフンを省略した。

```

\begin{minipage}{.58\textwidth}
\begin{gothic}
swa nu bidjaiy jus: Atta unsar yu in himminam, weihnai namo yein.

qimai yiudinassus yeins. wa\"{iryai wilja ye}\"{ins, swe in himina jah ana airyai.
\end{gothic}
\end{minipage}

```

**SYA NU BIAGAIΨ GNS: ΑΤΤΑ ΠΗΣΑΚ ΨΝ ΙΝ ΗΙΜ
ΜΙΝΑΜ· ΥΕΙΗΝΑΙ ΝΑΜΩ ΨΕΙΝ·
ΥΙΜΑΙ ΨΙΝΑΙΝΑΨΣΝΣ ΨΕΙΝΣ· ΥΑΙΚΨΑΙ ΥΙΛΩΑ ΨΕ
ΙΝΣ· ΣΥΕ ΙΝ ΗΙΜΙΝΑ ΓΑΗ ΑΝΑ ΑΙΚΨΑΙ·**

4.3.3 地の文で使用するゴート文字フォント

一般にゴート語はラテン文字で表記され、ゴート文字を地の文章で用いるのは希であろうが、ここではフォントの活用例としてゴート文字を地の文章で使う方法について述べる。Gothic1 フォントは **ABΓΔΕ** のように、EC フォント ABGDE と高さが同じようなデザインになっているために、ゴート文字が大きすぎ、バランスが悪い。そこで、ゴート文字を縮小して両フォントの高さを揃えることにする **abΓae** abgde。縮小率は Gothic1 フォントの XHEIGHT 0.69596 と EC フォントの XHEIGHT 0.4304 から求めて約 62% とした。フォントを縮小するには、igothic.fd で指定する方法 (1) とコマンドで定義する方法 (2) がある。(1) の場合は文章全体で、(2) の場合は部分的に縮小したフォントを使うことができる。

```
\DeclareFontShape{LIGOT}{igothic}{m}{n}{<-> [0.618]gothic}{f}% (1)
\newcommand{\smallgothic}[1]{\font\font=igothic at 6.18pt\font#1}% (2)
```

出力例を [高橋] から引用する。例文は上から、ゴート語、ギリシャ語、ラテン語、ルター訳である。

```
12 σεἰ πνακιννηαι ηικ· αδια αιγινις
    τὸ ἐπιβάλλον μέρος τῆς οὐσίας
    portionem substantiae, quae me contingit
    das teyl der gutter, das mir gehoret
```

煩雑になるので説明を割愛するが、Gotisch Font (6 ページ) を使うと次のような出力を得ることができる。

```
12 σεἰ πνακιννηαι ηικ, αδια αιγινις
    τὸ ἐπιβάλλον μέρος τῆς οὐσίας
```

- ★ (1) Babel パッケージは 4.3.2 節で述べた `\language` を用い、約 40 言語を一元的に管理するシステムである。言語名を指定するコマンドと環境を Babel のそれに例えたと次のようになる。

```
\setigothic      \selectlanguage{gothic}
\textgothic     \foreignlanguage{gothic}{}
\begin{gothic}  \begin{otherlanguage}{gothic}
```

- (2) 永田善久氏が『ヒルデブラントの歌』の組版において、ハイフンを伴わない分綴について解説されている。また、本田知亮氏が作成された `\changehyphen` (2001) が紹介されている。(『L^AT_EX によるドイツ語・日本語処理 (第 4 部)』http://www.lg.fukuoka-u.ac.jp/%7Eynagata/doc/d_latex4.pdf)

5 ローマ字転写フォント

5.1 igecr.vf と igecsl.vf

3.2 節で述べた **Θ** を転写する文字は、Gothic1 フォント **lv**、Gotisch フォント **lv**、TIPA **lv lv**、後述する Times German **lv** および Unicode の Latin Extended-B に含まれている。各種グリフを比較すると、本文で EC フォントを使用する場合 TIPA との組み合わせが適していることがわかる。そこで、本パッケージでは TIPA からこのグリフを借用し、EC フォントと組み合わせで仮想フォントを作成した。エンコーディングは前節で検討した Gutisks Font に基づく。vf フォントを作成する方法は iGothic の場合と同じである。iGothicTeX パッケージは、Roman 体の igecr.vf および Slanted 体の igecsl.vf を同梱する。以下に 2 種類の仮想フォントの主要箇所を示す。

igecr.vf フォント: tipa10 / ecrm1000

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"2x	˘	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	·	/
"4x	@	A	B	İ	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
"5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Ɔ	Z	[\]	^	_
"6x	‘	a	b	ï	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
"7x	p	q	r	s	t	u	lv	w	x	Ɔ	z	{		}	~	-

igecsl.vf フォント : tipasl10 / ecsl1000

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"2x	˘	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	·	/
"4x	@	A	B	İ	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
"5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Ɔ	Z	[\]	^	_
"6x	‘	a	b	ï	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
"7x	p	q	r	s	t	u	lv	w	x	Ɔ	z	{		}	~	-

- ★ (1) 本パッケージで本文の欧文に EC フォントを用いるのは筆者の好みによるが、ギリシャ語やロシア語を併用する際、フォントが共に CM フォント系なのでバランスがよいことも一因である。18 ページ参照。
- (2) 本文で使用するラテン文字に Times 系フォントを指定する場合は、TIPA の xipa*/xipas1* を組み合わせて用いる。仮想フォントの作成方法は 4.3 節を参照されたい。出力は次のようになる。

lvapro hvapro xipa10/xipas10 + ptmr8t/ptmro8t

- (3) Times 系フォントを使用するのであれば、TrueType の Times German フォントを利用する方法もある。

	"0	"1	"2	"3	"4	"5	"6	"7	"8	"9	"A	"B	"C	"D	"E	"F
"6x	‘	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
"7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	ĝ
"8x	·	ø	–	Ø	„	–	“	ø	Œ	Á	Ū	ý	ð	İ	·	–
"9x	ṡ	ȳ	é	ñ	Ÿ	e	ř	Á	á	–	É	é	–	Í	·	·
"Ax	–	i	İ	ŋ	ŋ	ř	ů	š	ĥ	©	ĥ	«	–	Ē	®	á
"Bx	°	±	ō	Ī	˘	ů	ŋ	·	lv	ı	đ	»	¼	½	¾	ı
"Cx	ǎ	ě	ř	Œ	Á	ǒ	ī	Ç	ů	Ē	ā	Ē	Ē	ǎ	Æ	æ
"Dx	ē	Ñ	Ò	Ó	Æ	Ɔ	Ö	g	ı	Ā	ā	ǎ	Ü	ı	HV	B
"Ex	à	á	â	æ	ä	å	ō	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
"Fx	ū	ñ	ò	ó	ô			Ɔ	ı	ù	ú					Ɔ

<http://homepage.uibk.ac.at/~c30310/gotwbhin.html>

このフォントは、Gerhard Köbler が Gotisches Wörterbuch で使用したフォントである [Köbler]。lv を始めとし、各種補助記号付き文字を含んでいる。また書体も Roman, Boldface, Italic, Bold Italic と揃っている。しかしながら、表（一部分を示す）に見るように利用に際しては、個々のグリフを入力するためのコマンドを定義しておかなければ使いづらい。さらに、全てのグリフは TIPA で表記できるので、T_EX 上でこの Times German フォントを使用する積極的な意味はないであろう。

5.2 フォントとハイフネーションの定義

igecr.vf および igecsl.vf では、i と i を使い分けるゴート語正書法の特徴を強調するために、fi を表す際に合字 fi を使用しない。仮想フォントの定義では下記の f と i のリガチャを省いてある。同じく、fl も fl とした。

```
(LIGTABLE
  (LABEL C f)
  (LIG C i 0 34)
```

igtrns.sty においてハイフネーションを組み込む定義は iGothic フォントの場合と同じである。ただし、ここではハイフンを通常どおり出力する。

```
\newcommand*\setgothic{\usefont{LECR}{igecr}{m}{\f@shape}%
  \@ifundefined{l@gothic}{%
    \PackageWarning{igtrns}{Gothic hyphenation undefined;\MessageBreak
    Using no hyphenation \MessageBreak}%
    \let\l@gothic\l@nohyphenation{}
    \language=\l@gothic \lefthyphenmin\tw@ \righthyphenmin\@ne
  }
  \IfFileExists{igtrns.fd}{%
    \input{igtrns.fd}%
    \DeclareTextFontCommand{\textgtrn}{\setgothic}%
    \newenvironment{gtrn}{\setgothic\ignorespaces}{\ignorespaces}%
  }{}}
```

神聖名の略記 \overline{gbs} で用いる上線を引く方法は多数あるが、本パッケージでは [基礎解説] に例示されている `\uml` を一部変更して使用した。下記の定義において `\gtrnoline` は、`\textsl` コマンドによる傾斜に追従して上線を右側に移動する。これは、`ecsl1000.tfm` において、`FONTDIMEN` の一番目のパラメータ `SLANT` が 0.166672 と定義されているのを利用したものである。9 ページ参照。

```
\newcommand{\gtrnoline}[1]{%
  \ifvmode \leavevmode \fi
  \setbox0=\hbox{#1}%
  \vbox{%
    \hbox to \wd0{%
      \setlength\@tempdima{\f@size pt}%
      \setlength\@tempdima{.5\@tempdima}%
      \fontsize{\@tempdima}{\f@baselineskip}\selectfont%
      \@tempdimb\fontdimen\@ne\font%
      \@tempdimb\f@size\@tempdimb%
      \@tempdimb2\@tempdimb%
      \hfil\hskip\@tempdimb\leaders\hrule\@height.25pt\hfill}%
      \nointerlineskip\vskip.25ex%
      \hbox{\hfil\setgothic#1\hfil}}}
```

`\gtrnoline` コマンドによる出力は次のようになる。

```
 $\overline{gbs}$   $\overline{gbs}$   $\overline{xs}$  \gtrnoline{gys} \textsl{\gtrnoline{gys}} \gtrnoline{is}
```

ちなみに \overline{gbs} \overline{xs} のように上線の高さを揃えて出力するには、`\gtrnoline` の最後の 2 行を `\vphantom` を使って次のように書き換える。([本田] 参照)

```
\nointerlineskip%
```

```
\hbox{\hfil\setgothic#1\vphantom{\large A}\hfil}}
```

フォント定義ファイル `igrtrns.fd` は次のとおりである。`\textit` はスランテッド体に代替される (5 行目)。

```
\DeclareFontEncoding{LECR}{}{}
\DeclareFontFamily{LECR}{igecr}{}
\DeclareFontShape{LECR}{igecr}{m}{n}{<-> igecr}{}
\DeclareFontShape{LECR}{igecr}{m}{sl}{<-> igecsl}{}
\DeclareFontShape{LECR}{igecr}{m}{it}{<-> ssub*igecr/m/sl}{}
\DeclareErrorFont{LECR}{igecr}{m}{n}{10}
\DeclareFontSubstitution{LECR}{igecr}{m}{n}
\endinput
```

コンパイルの途中で次のような警告が出るが、これは無視してよい。気に障るときはダミーの定義をプリアンブルに記述しておく。

```
LaTeX Font Warning: Font shape 'T1/ecrm/m/n' undefined
(Font)                using 'T1/cmr/m/n' instead on input line 27.
%
\DeclareFontFamily{T1}{ecrm}{}
\DeclareFontShape{T1}{ecrm}{m}{n}{<-> cmr10}{}

```

5.3 補助記号付き文字

ゴート語を分析・研究する際にはギリシャ語と共に、5.1 節・参考 (3) の Times German に含まれているような音素を表す際に添える補助記号をつけた文字が必要となる。次に主な補助記号付き文字を入力するための TIPA の入力方法を示す。なお、`\textsubenum` は本パッケージの定義である。

â	<code>\r{a}</code>	b ^h d ^h	<code>bh</code>
ā	<code>\=a</code>	ḃ ḡ ḏ	<code>\textcrb \textcrg \textcrd</code>
â	<code>\^a</code>	ĝ k̂	<code>\textroundcap{g} \c{k}</code>
ǎ	<code>\u{a}</code>	ḷ ṃ ṇ ṛ	<code>\textsubring{l} \r*m</code>
ǎ	<code>\u=a</code>	lv	<code>\texthvlig</code>
á	<code>\'a</code>	χ	<code>\textchi</code>
ę	<code>\textsyllabic{e}</code>	ʒ	<code>\textyogh</code>
u̇	<code>\textsubarch{u}</code>	ð	<code>\dh</code>
ë	<code>\"e</code>	ŋ	<code>\ng</code>
ī	<code>\={i}</code>	ē ₁ ē ₂	<code>\textsubenum{1}</code>
g ^h k ^h	<code>g\textsuperscript{\textsubarch{u}}</code>		
ḷ ṃ ṇ ṛ	<code>\={\textsubring{1}}</code>		
γ	<code>\texttipa{\textsubw{\textgamma}}</code>		

6 ハイフネーションパタン・ファイル

ハイフネーションパタンファイルは、分綴のパタンを定義する `\patterns{}` と、パタンでは対応できない単語を列記した例外辞書 `\hyphenation{}` からなる。

```

\message{Gothic Hyphenation Patterns 'gothyph' Version 0.1 <2006/01/10>}
\patterns{%
1ba 1be 1bi 1bo 1bu 1da 1de 1di 1do 3du 1fa 1fe 1fi 1fo 1fu 1g4a 1ge 1gi 1go 1gu
1h2a3 1he 1hi 1ho 1hu 1ja 1je 1ji 1jo 1ju ...
}
\hyphenation{yamm-uh sti-uh ...}
\endinput

```

6.1 ハイフネーションパターン

パターンを定義するルールは次のとおりである。関連している文字間の値が奇数の場合には、その両脇にある文字の間で分綴する。3のように大きな奇数はハイフンを挿入する位置を強制する。逆に偶数の値は望ましくない分綴を抑制する。

1. 二重母音 (Diphthong : iu) および 2 個の母音が連続している場合 (ei, ai, au) は分綴しない。

afai-aik Zaibaidai-aus

パターン : bi2u di2u b2e2i d2e2i g2e2i ba2i da2i a4u ba4u da4u

2. 単独で現れる子音は次行に送る。

pa-ta sai-lviþ

パターン : 1ba 1be 1bi 1bo 1bu 1da 1de 1di 1do 3du 1fa 1fe 1fi 1fo

3. 子音が 2 個以上連続する場合は原則として最後の子音を次行に送る。

bid-ja broþr-jus fas-ta faurh-taiþ gaþrafs-tei sok-jandans wahs-tau

パターン : 大部分は上記 2 のパターンが対応するが、一部のパターンについては個々に強制/抑制の値を調整する必要がある。

例外として、閉鎖音 (Muta : b, d, g, k, p, q, t), h および þ に流音 (Liquida : l, r) が続く場合と、任意の子音と Muta が続く場合は -bl, -dr, -hl, -ht, -þr, -sk, -st のように分綴する。

hug-greiþ jain-þro maur-þreiþ ne-þlos sti-kla win-trau

パターン : 1b2l 1b2r 1d4r 1g2l 1g2r 1h2l 1h2r 1y2l 1y2r .af1s2t 1s4k 1s2m 1s2n

重子音 (Geminate : ll, rr) は jal-laggei fidur-ragini と分綴する。

4. 合成語は語要素の繋ぎ目 (Fuge) で分綴する。

前置詞, 接頭辞, 接尾辞, 合成動詞などが該当する。

af-airzidau at-satjan fram-akdra ga-swalt miþ-arbaidei skai-skaid uf-graband ufar-ist us-iddja us-nu-gibiþ diz-uh-þan-sat ga-u-hva-sehv inn-gaggan us-nu-gibiþ

パターン : .a2f1 .a2f1ai fau2r2a3t2 .fra2m3 ga3t2 .mi4y3 .t2wi2s1

5. 前接辞 (Enklitiken : -uh -h) と疑問辞 (Fragepartikel : -u) を含む単語は次のように分綴する。

andiz-uh in-uh ja-u ni-u quþ-uh salva-zuh sijai-du skul-du swa-u harji-zuh þar-uh

パターン : 1uh. 3z4u2h. 2o3h. 2au3h. 1e2i. s4uh

6.2 例外辞書

`\hyphenation{単語}` には、上記のパターンに当てはまらない特殊な分綴をする単語を空白で区切って指定する。

おわりに

ここで述べた *iGothicTeX* パッケージは試作段階のもので、今後、修正や改良を加えていきたい。主な課題は次の 2 点である。

- ハイフネーションパタンの精度を高める。
これにはゴート語の十分な知識が必要で、筆者の手に余る課題である。識者のご指導をお願いしたい。
なお、ハイフネーションを使わない場合は次の定義を書き加えておく。

```
\hyphenpenalty=10000\exhyphenpenalty=1000
\lefthyphenmin=100\righthyphenmin=100
```

 または `igothic.sty` と `igtrns.sty` 内の下記定義をコメントにする。

```
\language=\l@gothic \lefthyphenmin\tw@ \righthyphenmin\@ne
```
- ゴート文字フォントのカーニングを調整する。
文字間のスペースは読みやすさに大きな影響を与える。個々人の好みにもよるが、できる限りカーニングの調整を行いたい。

‘Gothic’ について余談を述べて終わりとする。周知のとおり CTAN/fonts/gothic に Yannis Haralambous 氏によるドイツ文字「Gotisch (別名 Textur)」が登録されている。この書体は 8 世紀末から 9 世紀にかけて現れたラテン文字「カロリング小文字体 (Carolingian Minuscule)」から発展した「ゴシック文字 (Gothic Script)」である。テクストゥーラ体 (Textura, Textur) はラテン語で「織物」を意味し、ぎっしり詰まった字面が織布を想わせるところから命名された。ドイツ語では「格子 (Gitter)」にたとえて Gittergotisch, 略して Gotisch ともいう。

iGothicTeX はもちろん上で述べたゴシック文字ではなく、ギリシャ文字の流れを汲む 4 世紀頃に現れた「ゴート語聖書の文字 (Gothic alphabet, Gotisches Alphabet, Wulfila Schrift)」を扱うパッケージである。コプト文字 (3 世紀～) とキリル文字 (10 世紀～) もギリシャ文字の影響を受けた文字である。

Carolingian Minuscule	abcde fghijklmnopqrstu vxyz
Gothic Textura	abcde fghijklmnopqrstu vxyz
Gotisch	abcde fghijklmnopqrstu vxyz
Coptic Alphabet	ⲀⲂⲄⲆⲈⲐⲒⲔⲖⲘⲚⲜⲞⲠⲢⲤⲦⲨⲪⲬⲮⲰⲲⲴⲶⲸⲺⲼⲾⲿ
Gothic Alphabet	ⱁⱃⱅⱇⱉⱋⱍⱏⱑⱓⱕⱗⱙⱛⱝⱟⱠⱡⱣⱥⱧⱩⱫⱭⱮⱰⱲⱴⱶⱸⱺⱼⱾⱿ
Old Slavonic Alphabet	ⱁⱃⱅⱇⱉⱋⱍⱏⱑⱓⱕⱗⱙⱛⱝⱟⱠⱡⱣⱥⱧⱩⱫⱭⱮⱰⱲⱴⱶⱸⱺⱼⱾⱿ

*i*ⱄⱆⱈⱊⱌⱎⱐⱒⱔⱖⱘⱚⱜⱞⱠⱡⱣⱥⱧⱩⱫⱭⱮⱰⱲⱴⱶⱸⱺⱼⱾⱿ

iGothicTeX Package by Inagaki, Version 0.1 2006/04/01

COPYRIGHT NOTICE

This *iGothicTeX* package is free software that can be redistributed and/or modified under the terms of the L^AT_EX Project Public License as specified in the file `macros/latex/base/lppl.txt` on any CTAN archive server, such as <http://ring.wakwak.com/pub/text/CTAN/>.

参考文献

- ウルフィラ聖書
 - 原典
 - [Uppsala] Codex Argenteus - Silverbibeln [Uppsala Universitetsbiblioteket]
url : <http://www.ub.uu.se/arv/codex.cfm>
 - [Gotica] The Codex Argenteus Online
url : <http://www.gotica.de> [Codex Argenteus]
 - [Hildegunds] Codex Argenteus Digital Reconstruction
url : <http://hometown.aol.de/hildegunds/CodexArgenteus/>
 - テキスト版
 - [Streitberg GB] Wilhelm Streitberg: Die Gotische Bibel. Der gotische Text und seine griechische Vorlage, 1919 url : <http://www.wulfila.be>
 - [Gotica] Gotisch-Projekte url : <http://www.gotica.de>
 - [CSTUT] Digitizing the Codex Argenteus
url : http://www.cs.tut.fi/~dla/Codex_Argenteus/Cod_Arg.html
 - [TITUS] Thesaurus Indogermanischer Text- und Sprachmaterialien
url : <http://titus.fkidg1.uni-frankfurt.de/indexe.htm>
- 文法
 - [高橋] 高橋輝和『ゴート語入門』改定増補版, クロノス, 1999
 - [Braune] Braune/Heidermanns: Gotische Grammatik. 20. Auflage, Tübingen 2004
 - [Streitberg GE] Wilhelm Streitberg: Gotisches Elementarbuch, 1920
url : <http://www.wulfila.be/lib/> [Streitberg 1920]
- 辞典
 - [Streitberg GW] Wilhelm Streitberg: Gotisch-Griechisch-Deutsches Wörterbuch, 1910
url : <http://www.wulfila.be/> [Streitberg 1910]
 - [Köbler] Köbler, Gerhard: Gotisches Wörterbuch, 1989.
url : <http://homepage.uibk.ac.at/~c30310/gotwbhin.html>
- 言語一般
 - [言語学辞典] 『言語学大辞典セレクション ヨーロッパの言語』, 三省堂, 1998
 - [文字辞典] 『世界文字辞典』, 三省堂, 2001
- TeX
 - [基礎解説] 『L^AT_EX マクロ&クラス プログラミング基礎解説』, 技術評論社, 2002
 - [奥村] 奥村晴彦『改定第3版 L^AT_EX 美文書作成入門』, 技術評論社, 2004
 - [本田] 本田知亮『L^AT_EX 標準コマンド ポケットリファレンス』, 技術評論社, 2005
 - [Beccari] Claudio Beccari : Coptic パッケージ, 2004
url : CTAN/language/coptic/cbcoptic

ΑΤΤΑ ΠΝΣΑΚ
ΨΝ ΙΝ ΗΙΜΙΝΑ·
ΥΕΙΗΝΑΙ ΝΑΜΩ ΦΕΙΝ·
ΥΙΜΑΙ ΨΙΠΑΙΝΑΨΣΝΣ
ΦΕΙΝΣ· ΥΑΙΚΨΑΙ
ΥΙΑΓΑ ΦΕΙΝΣ ΣΥΕ ΙΝ
ΗΙΜΙΝΑ ΓΑΗ ΑΝΑ ΑΙΚΨΑΙ
ΗΛΑΙΨ ΠΝΣΑΚΑΝΑ ΨΑΝΑ
ΣΙΝΤΕΙΝΑΝ ΓΙΨ ΠΝΣ ΗΙΜΜΑ
ΑΑΓΑ· ΓΑΗ ΑΨΑΕΤ ΠΝΣ
ΨΑΤΕΙ ΣΚΠΛΑΝΣ ΣΙΓΑΙΜΑ·
ΣΥΑΨΥΕ ΓΑΗ ΥΕΙΣ ΑΨΑΕΤΑΜ
ΨΑΙΜ ΣΚΠΛΑΜ ΠΝΣΑΚΑΙΜ·
ΓΑΗ ΝΙ ΒΚΙΓΓΑΙΣ ΠΝΣ ΙΝ
ΨΑΙΣΤΠΒΗΓΑΙ· ΑΚ ΛΑΠΣΕΙ
ΠΝΣ ΑΨ ΨΑΜΜΑ ΠΒΙΛΙΝ·
ΠΝΤΕ ΦΕΙΝΑ ΙΣΤ
ΨΙΠΑΑΝΓΑΚΑΙ· ΓΑΗ ΜΑΨΣ
ΓΑΗ ΥΠΛΨΝΣ ΙΝ ΑΙΥΙΝΣ·
ΑΜΕΝ·

Молитесь же так:

Отче наш,
 сущий на небесах!
 да святится имя Твое;
 да придет Царствие Твое;
 да будет воля Твоя и на земле,
 как на небе;
 хлеб наш насущный дай
 нам на сей день; и прости
 нам долги наши, как и мы
 прощаем должникам нашим;
 и не введи нас в искушение,
 но избавь нас от лукавого.
 Ибо Твое есть Царство
 и сила и слава во веки.
 Аминь.

"Biblia" 1988

【The Lord's Prayer (Matthew 6:9-13)】

9 swa nu bidjaiþ jus: Atta unsar þu in him-
 minam, weihnai namo þein·
10 qimai þiudinassus þeins· wairþai wilja
 þeins, swe in himina jah ana airþai·
11 hlaif unsarana þana sinteinan gif uns
 himma daga·
12 jah aflet uns þatei skulans sijaima, swa-
 swe jah weis afletam þaim skulam unsaraim·
13 jah ni briggais uns in fraistubnjai, ak lau-
 sei uns af þamma ubilin; unte þeina ist þiu-
 dangardi jah mahts jah wulþus in aiwins·
 amen·

9 οὗτος οὖν προσεύχεσθε ὑμεῖς. Πάτερ ἡμῶν
 ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς, ἁγιασθήτω τὸ ὄνομά σου.
10 ἐλθέτω ἡ βασιλεία σου. γεννηθήτω τὸ θέ-
 λημά σου ὡς ἐν οὐρανῷ καὶ ἐπὶ τῆς γῆς.
11 τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον δὸς ἡμῖν
 σήμερον.
12 καὶ ἄφες ἡμῖν τὰ ὀφειλήματα ἡμῶν, ὡς καὶ
 ἡμεῖς ἀφίεμεν τοῖς ὀφειλέταις ἡμῶν.
13 καὶ μὴ εἰσενέγκῃς ἡμᾶς εἰς πειρασμόν, ἀλ-
 λά ῥῦσαι ἡμᾶς ἀπὸ τοῦ πονηροῦ, ὅτι σοῦ ἐστὶν
 ἡ βασιλεία καὶ ἡ δύναμις καὶ ἡ δόξα εἰς τοὺς
 αἰῶνας. ἀμήν.

【ゴート語／ギリシャ語対訳 (Matthew 6:9-13)】

天におられるわたしたちの父よ、
 み名が聖とされますように。
 天国が来ますように。
 みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
 わたしたちの日ごとの糧を今日も お与えください。
 わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。
 わたしたちを誘惑におちいらせず、
 悪からお救いください。
 アーメン

【主の祈り (日本聖公会／ローマ・カトリック教会共通口語訳)】